

老年期における表示の明視性の研究(5) —家電製品の場合—

共立女大 伊藤紀之、○玉田真紀、青葉学園短大 芦澤昌子

山梨県立女短大 小管啓子、共立女短大 藤田信子

目的 昨年度は老年期の人々が抱える表示の問題点を調査した上で、どの表示にも共通する問題である文字の大きさ、文字の色と背景色の関係を取り上げて、老年期の人を対象にどの範囲の文字が見えるか調査した結果を報告した。今回は、日常生活において身のまわりにある生活用品の表示に、どのような文字の大きさや色が使われているかを実態調査し、昨年度の結果と合わせて、老年期の人にとって見やすい表示であるか、どんな問題があるのか考察することを目的とする。ここでは家電製品について調査した結果を報告する。

方法 1992年10月から12月、家庭にある家電製品の表示文字の色、地色の色、ボディーの色、文字の大きさについて質問紙法により調査した。色は日本色研配色カード129色から近似色を選び、文字の大きさは天地を0.5mmの精度で計測した。品目はテレビ、ラジオ、電話(情報関連)、電子レンジ、冷蔵庫、炊飯器、ポット(食生活関連)、洗濯機、アイロン(衣生活関連)、エアコン(住生活関連)、血圧計、体重計(健康関連)の12品目である。

結果 有効回答数は496件であった。ボディーの色は無彩色が多く、表示文字と地色も無彩色がよく使われていた。文字と地色に灰色の濃淡を用いたものも多かった。多色相の色による識別を用いた表示は少なかったが、黒や灰色に赤、緑、青系の見えにくい文字が使われていた。文字の大きさは1mmからあり、老年期の人にとっては小さすぎる文字が多かった。家電製品はシンプルなイメージをこわさないよう目立たない表示にする傾向がみられるが、老年期を対象とした製品は見やすい表示の色彩計画が今後の課題である。